

DESA001 α 日付及び時刻に関する事項

日付及び時刻のデータは、ISO8601 及び JIS X 0301（日付及び時刻の表記）に準拠し、以下のとおりとする。（但し、高速処理が必要な場合等、特段の事情がある場合には、独自形式を採用する場合もある。）

1 日付及び曜日

1.1 日付

日付のデータは次のとおりとする。半角を使用する。

YYYY-MM-DD

YYYY：西暦年 4 桁

MM：月 2 桁（1 桁の場合には前に 0 をつける）

DD：日 2 桁（1 桁の場合には前に 0 をつける）

例) 2017-09-01

注) マイクロソフト社 Excel を使用する場合、日付書式を「英国」の中の YYYY-MM-DD を選択

1.2 曜日

曜日のデータ及びコードは、次のとおりとする。

1:月曜日

2:火曜日

3:水曜日

4:木曜日

5:金曜日

6:土曜日

7:日曜日

“曜日”は省略し「月曜日」を「月」と記入してもよい。
列挙する場合には、月曜日から順に記入し、“曜日”はデータに含まない。

例) 12345
月火水木金

2 時刻

時刻のデータは、次のとおりとする。

HH:MM:SS (秒は省略可能)

HH : 時間 (24 時間表記。1 桁の場合には前に 0 をつける)

MM : 分 (1 桁の場合には前に 0 をつける)

SS : 秒 (1 桁の場合には前に 0 をつける)

3 日付と時刻の組み合わせ

日付と時刻は、「日付」と「時刻」の 2 つのデータ項目で設定することが望ましい。

日付と時刻を 1 つのデータ項目で持つ場合には、国際標準に従い日付と時刻の間を「T」で接続して表現する。国際的にデータ連携をする場合は、必要に応じて、秒の後ろに UTC (協定世界時) に対して遅れている時間を「+」若しくは「-」記号で表現する。

YYYY-MM-DDTHH:MM:SS+hh:mm

hh : UTC に対して遅れている時間

mm : UTC に対して遅れている分 (通常は 00)

例) 2017-09-01T09:30:00+09:00

4 期間

期間は、「開始日」、「終了日」と「開始時刻」、「終了時刻」の 4 つのデータ項目で設定することが望ましい。

期間を 1 つのデータ項目で持つ場合には、国際標準に従い以下の通りにする。

4.1 基本構造

期間の開始日時と終了日時を/でつなぎ、次のとおりとする。

YYYY-MM-DD/YYYY-MM-DD

4.2 時刻を含むとき

期間に時刻を含むときは、「3 日付と時刻の組み合わせ」の方法を組み合わせて、次のとおりとする。

YYYY-MM-DDTHH:MM:SS+hh:mm/YYYY-MM-DDTHH:MM:SS+hh:mm

4.3 年が同一のとき

期間の年が同一のときは、年の部分を省略して、次のとおりとする。

YYYY-MM-DD/MM-DD

4.4 月まで同一のとき

期間の年及び月が同一のときは、年及び月の部分を省略して、次のとおりとする。

YYYY-MM-DD/DD

5 特記事項

日付及び時刻に関して、「金曜日は17時まで」等の特記事項を記載する必要がある場合がある。その場合には、上記のデータ項目内に記述するのではなく「備考」のデータ項目を付加し対応する。

6 解説

6.1 拡張形式の適用

ISO8601 では、日付及び時刻の表記に基本形式と拡張形式がある。基本形式は、YYYYMMDDTHHMM+hhmm であり、視認性が悪いため、日付にハイフン、時刻にコロンを使用する拡張形式を使用する。

6.2 年月日の表記

国内では、年月日を記載する際に「9999 年 99 月 99 日」もしくは「9999/99/99」と記載することが一般的であるが、システム内やグローバルなデータ連携では国際標準に従い「9999-99-99」を使うことが多い。本標準はデータ連携用標準であることから、「9999-99-99」を採用した。

6.3 和暦との変換

入力や表示・印字において和暦年を使う場合には、入力時には入力データを和暦から西暦へデータの変換を行い、データでは西暦での管理を行う。逆に出力時には西暦から和暦への変換を行い表示する。同様に、入力や表示・印字において 12 時間制を使う場合には、データは 24 時間制で管理を行い入出力時にデータの変換を行うこととする。

例：入力 [平成 27 年] →システム内 [2015]

システム内 [2015] →出力 [平成 27 年]